

白浜地域づくり協議会準備委員会 活動報告会概要

と き:平成22年2月28日(日)
午前10時00分～午前11時30分
ところ:道の駅 花の情報館 会議室

次 第

1. 開会
2. 経過報告
3. 活動グループの報告
 - ①白浜花の会
 - ②トンネルを歩こう会
 - ③城山登山道を生かす会
 - ④農業体験グループ
4. 地域づくり協議会の名称・目標・活動内容
5. 総評(千葉工業大学鎌田元弘教授)
6. 意見交換
7. 閉会



地域づくり支援員片桐
さんが進行



※南房総市長あいさつ

皆様方は、これまで様々な協議、実践をされたきたわけですが、本日は報告会ということで大変ご苦労さまです。
私が地域づくり協議会を進める理由は、自治の原点は、そこに住む方々の手で地域経営をしていくことであるということ。そして、地域で出来ない部分は、行政が行うのは当然であり、住民の皆さんの自治を高めようとして進めるものです。
行政の場合には、予算にはないものはできない(予算主義)、困っている方がいても平等という観点から迅速に対応できないという機動性が足りない部分がある。しかし、住民の皆さんであればそのようなことはない。その時、必要なことを行うことができる。地域には、行政に出来ない部分をたくさん持っている。そういった市民の力を高めていって、行政と一緒に地域づくりを進めていくが重要です。この趣旨を理解いただいて、この輪が南房総市全体に広がっていく努力してまいります。

2. 経過報告

準備委員会の中村です。私から白浜地域づくり協議会準備委員会のこれまでの経過について報告させていただきます。お手元にお配りしてあります資料の表紙の裏面をご覧ください。私たちの活動の原点はどこにあったか、南房総市の未来塾というものがありまして南房総市の将来のあり方、日頃自分たちの抱えている問題等を発見したりそれに対してどう見通しをもたらしたいかと語り合う会議に参加してきました。どういわけか白浜地域からは4名の塾生がいます。そういう方を中心にしていろいろな活動をしてきました。昨年の白浜地域づくりを考える会というのを発足させようということで回覧を通じて地域の皆さんに広報をいたしました。そこから25人の方の応募があり、白浜地域づくりを考える会がスタートしたわけですが、この会は25人を中心にして何回かの集まりを持っていろいろ討議をしてきました。その中で今日おいでになってます千葉工業大学の鎌田元弘先生と学生を交えましていろいろアドバイスを頂きながらワークショップの手法を使って白浜地域の問題解決方法であるとか地域資源の磨きかたなどを話し合ってきました。活発な意見もでて議論も大きく展開してきたわけですが、その第1回が7/9でございました。第2回が8/5に行いました。この中でいろいろな意見がたくさんでしたが、どうしても自分達の住む地域に対する様々な思いがたくさんありました。また、それぞれの思いの強さがでて収集のつかないことも実はありました。そんな中からこの混乱を解決しようということで、ファシリテーターの養成講座というのを9/4にもちました。10/1には地域リーダーの会議も行いました。このような手法を使いまして自分たちの考えをどうやってうまくまとめていこうかということも学んできたわけですが、第3回の10/31には、会議だけではなく、まず自分たちの手近なところから何か活動をしていこうかという考え方ができました。そして、その中から4つの活動が皆さんから提案があり、実践を行って来ました。後ほどその1つ1つについてそれぞれのリーダーから報告があるとおもいます。そのようなことから第4回の会議には、地域づくり協議会を将来作るべきとして、準備委員会というものを決めました。準備委員会では、25名の会員の中から先ほど申し上げました活動グループの4名の代表と立候補者10名のトータル14名の準備委員会委員によって討議を続けてきました。9回ほど続くわけですが、今日のこの報告会に至ったわけですが、地域づくり協議会設立に向けて、白浜地域の区長さんなどに来ていただいてこの開催の経過などの報告を聞いていただき、意見をいただき、3月に設立総会となります。是非ともみなさまの良き理解者良き協力者としてサポートしていただきたいと思っております。簡単ではありますが私の報告にさせていただきます。また、白浜支所には、私達の支援をしてくれる支援員の皆さんがおられます。皆さんにも知っていただきたいと思っております。ありがとうございました。



3. 活動グループの報告

①白浜花の会

花の会の落合です。これから花の会の発表をさせていただきます。花の会は10月から活動を始めました。会議を何回かやった中でどこにどのようなプランターがあるか調べなければいけないという話がでて、その時に私達がやりましょうということでもまだ暑いなか栗原さんと中村さんの2人が白浜中を回ってプランターにナンバリングをして地図に書き込むという活動から入りました。根本の海岸から乙浜まで海岸道路と県道と合わせて400以上ありました。その後の実際の作業としては10月末から毎週月曜の9時から11時まで2時間雨以外の日にやっています。その日に出来る人達が支所に集まって道具や軽トラを各自持ち寄りで行っています。私は花摘みのシーズン中は花摘みのハウスをやっている、そちらが忙しいので行けないことが多いです。ちょっと無理をすると続かなくなると思いますができる人ができる時にやればよい活動だよねと自分に言い聞かせながら休ませていただいております。写真のほうの説明をさせていただきます。まず1番です。これはただの海岸ですけれどもそれぞれの家でもそうだと思いますけれども草を刈るとすぐにゴミ袋がいっぱいになってしまったりする早々問題が出てきてしまいました。このゴミ袋です。会議の時に白浜の支所長さんに相談したところボランティア袋というものがあるのでそれを提供していただくことができました。それを清掃センターに持ち込めば無料で引き取ってもらえるように話しておいていただきましたので終了後に清掃センターまで運びますが、ゴミ袋がすぐいっぱいになってしまうという問題が出てきてしまいました。2の写真のようにプランターだけでなく後ろの石垣が繁茂してしまっているのを刈ってゴミ袋に入れるとゴミ袋がピーと切れてしまったりかさばって数がものすごく多くなってしまったりそこが大変でした。プランターの後ろのほうなんですけど路面の草がすごいです。机上の会議ではわからない問題でした。また路上の草というのがかわいいもんだなと気がついたのが3のフローラルの付近の写真を見ていただくように海岸のプランターの周辺に碎石、そしておまけに何という植物かわかりませんが、松葉菊のようなものが多肉植物の長所をいかしてものすごく繁ってしまっていてこれを撤去するのがものすごく大変だったんですね。これを持ち込むのもどうしようかとその場で途方に暮れてしまったんですけども幸いこのフローラルの前の土地に「草だから腐るよね」ということで捨てさせていただきました。次に5を見て下さい。このようにプランターだけではなく、大きい花壇もありました。リゾート園の前にもあってこれほどこの管轄なのかと栗原さんに調べていただいたんですけども市のものではないということでもそのへんの扱いもどうしたらいいか悩みました。けれどそこをやらなさいと見えないし、簡単な草取りをしました。特に5、6の写真の場所は靴の根がすごくてとのに苦労したそうです。このように現在汐浦の海岸から砂取までできましたけれども実際に行動しているなかでいくつか問題が出てきました。まず植える花をこの先どうするかということです。一応10月11日にキンセンカの苗の植え残りをいただいて植えるはしたんですけども、キンセンカのみというわけにもいかないし、季節が違った時にどうするかというのがあります。特に灯台から根本までの海岸などは潮と風がすごいでそれに強い植物じゃないといけなくてそれが何がいいのかわからなくて困っています。皆さんの中で庭に咲いていて潮や乾燥に強くてよく増える花を知っているという方がいらっしゃいましたら是非お知恵をかしていただきたいと思っております。キンセンカの苗のように寄付もよるこんで受け付けていますのでぜひ皆様にお伝え下さい。刈った草を量を減らしてから燃すなりゴミとして捨てるの場所が必要だなと思っただけでよい所があったら、お知恵があったら教えていただきたいとおもいます。プランターの草を刈っただけで堆肥や肥料などはいれなくてキンセンカの苗を植えたんですけどちっとも大きくなりません。そこも今後の問題だとおもっています。最後にできることをできるときにできる人はやっている活動ですのでぜひ皆様のご参加やご協力をいただけるようでしたら、とりあえず1回でもかまいませんのでぜひお願いしたいとおもいます。各区分長さんには、区の皆様にも地域づくり協議会のこういう活動があるよということでお伝えくださるようよろしくお願いします。



②トンネルを歩こう会

トンネルを歩こう会の加藤です。私達は4/1の一般開通の前の安房白浜トンネルを地域の方がたと歩こうということで11月から会議を重ねてきました。当初は独自で3月の終わり頃、暖かくなってからやろうという企画でしたが市のほうから2/13の開通式の後に歩いてくればよいという話がきたので話し合った結果、開通式の後に安房白浜トンネルを歩こうというイベントを実施しました。これは、トンネルを見下した時の写真です。研究所の説明の後トンネルの中を歩かせていただくのくらい時間がかかるとかまた危ないところがないかをチェックいたしました。年が明けてからはこのイベントをどのように地区の方々にPRしていったらいいのかなという会議からスタートし、ポスターを製作したりそのポスターを各商店に貼らせていただいたり房日新聞の記事に載せたり、また協働つうしんにPRしたりしました。各学校のほうには参加申込書等を配ってPRしました。当日は小雨の降るなかとても寒い天候でどのくらい参加者が来てくれるか心配でしたが私達の予想を上回る250名以上の人が参加してくれました。この1の写真が開通式の後テープカット等が終わってこれから皆さんとトンネルを歩く前の写真です。ここにプランターがありますが、原区の松本さんが中心になってボランティアで作ってくれたプランターです。6、70個くらい作ってくれました。2番の写真が皆さんとトンネルの中を歩いている写真です。3番の写真はトンネルを抜けた後ですが日本でも最大級の海底地すべり地層を皆さんと見学している時の写真です。当日は、館山総合高校の黒川先生に来ていただき地層の説明をしていただきました。とても皆さん熱心に聞いてました。最後の4番の写真は戻ってきてから参加した子供たちとゲーム等で楽しんでいる時の写真です。個人的な感想ですが私が思っている以上に地域の方々は、このトンネルに興味があったんだと実感します。またこれからこういうイベントはすばらしいなと思いました。最後にこのトンネルがこれから白浜の発展のための懸け橋ならぬ「懸けトンネル」になってくれればなと思います。



③城山登山道を活かす会

準備委員会の山口です。私から、城山ウォーキングとガイド養成の活動について報告します。まず、写真の①をご覧ください。城山の展望台から望む素晴らしい眺望です。花畑と野島崎灯台が望めます。写真の②は、夏の風景ですが、青い海、太平洋が望めます。この風景は白浜地域の宝ではないでしょうか。しかし、展望台までの登山道は、行政が整備したものの放置されたまま、そこで、地元の有志が集まり「城山登山道を活かす会」を結成して、登山道を整備し、ハイキングコースを作りました。パネルの③をごらんください。夏の展望台付近の様子です。草が生い茂っています。誰も管理しないとこのような状態になります。私どもの会と観光協会白浜支部のみなさまの協力を頂いて草刈をおこない清掃、整備した時のものです。写真④は、作業後の写真です。この作業は、年3回程度おこなっております。写真の⑤は、作業メンバーの写真ですが、みんないい顔していませんか。今回、白浜の地域づくりを考える会で、この城山を何とか活かさないか、多くの方に訪れていただけないかと考え、考える会のメンバーと城山登山道を活かす会の連携活動として、ウォーキングイベントとガイド養成を行いました。パネルの⑥と⑦をごらんください。ウォーキングイベントで、地域の子どもたちの遠足や遠く都会の子どもたちも体験学習で訪れた時のものです。活動を続ける中で、是非このコースを案内して欲しいと登山者からよく声をかけられるようになりました。そこで、ボランティアガイド養成塾を1/23に開講しました。写真⑧をごらんください。13名の参加をいただき地域のかたが、作ったガイド書を参考にしながらモデルコースを歩きました。今後もガイド養成を継続的に行って、できれば白浜の新たな観光スポットとしていきたいと思っております。また、ここには写真がありませんが、考える会と活動を連携したことで、考える会のメンバーから登山者の休憩にとベンチの寄贈があったり、案内板や登山者用のつえの整備も行い、活動が広がりました。1つの団体だけで活動していると、活動がマンネリ化したり、停滞したりします。地域づくり協議会を通じて色々な団体の連携を生んでいきたいと感じたところです。以上で活動報告を終わります。ありがとうございました。



④農業体験グループ

農業体験ツアーの代表者は高木豊と申します。本日は小戸地区の初午の行事のために出席できません。私は、橋本といいます。説明のほうは不慣れであり得意ではありません。よろしくお願いいたします。この農業体験ツアーの参加者ですが横浜、千葉、勝浦、移住者、地元の人達と様々です。参加者の目的も移住希望者の方や自分の商売に役立てようとする人また単に農業作業を楽しみ体験したい人いろいろです。作業時間は午前10時から午後3時まで。開催日は月に1、2回主に土曜日です。各開催日には毎回15名ほどの参加者があります。道の駅集合で昼飯は自己負担。弁当を頼んだり新米の時期は手巻きのおにぎりや炊き込みご飯に味噌汁と会のほうで昼飯の用意をしたりもします。実施のほうですが9/19に金銭花の種まきを行いました。種まきはすぐ終わりますので城山のハイキングも合わせて行いました。10/10には金銭花の定植、10/17にそらまめの種まきと金銭花の草取りです。11/14に金銭花の剪定。11/21は移住者の体験談として、ここにいらっしゃる中村さんに協力してもらって行いました。その後草取りや消毒、作業が始まる前に安房農林振興センターの職員による金銭花の栽培の講習やそらまめの1月から3月までの管理法や農薬肥料の役割等の検討をしました。これから先は参加者には金銭花の花摘み水とそらまめのむき取りを予定しています。私自身の感想ですが自分の仕事と同じことをしておりますがただ女房と2人でしているので大勢の人達とすることでかなりの気分転換になりますし楽しかったです。今度農業体験を企画しましたら皆さん参加して下さい。



4. 地域づくり協議会の名称・目標・活動内容

準備委員会の栗原です。私から、地域づくり協議会の設立に向け、準備委員会で9回にわたり協議検討された決定した事項について報告させていただきます。まずは、地域づくり協議会の名称です。白浜の灯台とひかりのもとに人々が集まるイメージから「白浜地域づくり協議会「きらり」としました。地域の方には、「きらりに行こう!」「きらりのイベントに参加しよう!」など皆さんに親しんで呼んでもらえればと思います。きらりは、地域の課題を解決するために自分たちで出来る活動から行います。活動を行うには目指す目標が必要です。そこで、きらりの活動目標を「世代を超えた絆を深め、おだやかに暮らせる美しい白浜づくり」としました。子供からお年寄りまでが絆を深め、おだやかに、安心・安全な地域、美しい白浜は、里山から青い海などの景観を大切にしたい地域づくりを目指すといった意味を込めています。この目標を会のスローガンとして活動してまいります。また、スローガンをさらに具体的な3つの中目標を定めました。テーマを「絆」「安」「誉」として、絆では、世代を超えて会話の響く白浜を目指します。白浜のいたるところで地域の方々の会話が響き、笑顔の絶えないまち白浜をめざす活動を行います。安では、みんなが安心して安全に暮らせる白浜を目指します。自然災害、防犯活動など地域の皆さんが助け合い乗り越えられるまち白浜を目指します。誉では、「白浜が好き!」みんなが言える白浜を目指します。白浜に住むみんなが、この白浜に誇りを感じられるまち白浜を目指します。これらの目標を旗印に、来年度は5つの活動を計画しています。1つは、白浜のレクリエーション大会の実施です。この白浜では、様々なイベントがなくなり、集う場や機会がなくなりつつあります。そこで、地域の絆を深めるイベントとして開催しようとするものです。2つ目は、地域の美化活動です。子供たちに環境を意識してもらおうとごみ拾い駅伝の実施を計画しております。そして、先ほどの報告のあった活動のうち、プランター事業、城山ウォーキング+ガイド事業、農業体験ツアーについては、継続して実施してまいります。今後は、先ほど説明しました会の目標に沿って、地域の課題を解決する活動を展開してまいります。資料の最後に「きらり」の設立趣旨を付けさせていただきました。後ほどご覧いただきたいと思います。が、私たちは、白浜を何とかしたい、白浜を誇りに思えるようなところになりたいと集まったメンバーです。地域から選ばれた者でもありません。今後、地域の皆様とともに活動して、地域に必要な会となるようにしていきたいと思っております。是非、私たちの思いに賛同いただき、白浜地域づくり協議会「きらり」への参加をお願いします。きらりの会員募集をお願いしまして、私からの報告を終わります。



5. 総評(千葉工業大学 鎌田元弘教授)

皆さんおはようございます。その節は白浜地域づくりを考える会では大変お世話様になりました。おかげさまで今日私1人なんですけれども学生たちも特に参加させていただいたり白浜や和田南房総市全体が大好きになりました。学生たちも白浜、和田地域をテーマとした卒業論文をまとめたんですけれども思いのこもった発表ができてまわりの先生方からいい研究であると評価をいただきました。今日は、皆さんの話しを伺ってそれぞれが私は苦手なんだけれどとおっしゃりながら大変すばらしいお話をされていて実に見事だと率直に感じました。

これも振り返ってみますと地域づくりを考える会で延べ4回、準備委員会で8回毎回のよう意見交換をし、時には発表会をやり気づかぬ内に皆さんの実力が上がっているんだなというふうに思いました。特に今日はきれいな一枚一枚思いのこもった写真を添えて発表いただき、大変関心して伺っておりました。

総評というよりはたいへんすばらしいという感想なんですが1つ1つ感想を述べたいと思います。まず花の会ですが白浜花の会が大変素晴らしいお言葉をいただいたように思いました。「できる人ができる時」にこれは大変重要なことだと思います。市長さんもおっしゃっていたように住民の自治意欲を高めるためには大変重要です。けれども自治を高めるあまり従来の農村ではどうしても義務感といいますか、やんなきゃいけないという部分が出てきてしまう部分はあるところがありましたが、できる人ができる時にやればいんだよというような心がけは大変すばらしい。それだけ多くの人が参加しやすいわけですし、また多くの方が集まりやすいという意味で大変いいお言葉を頂戴できたかなと思いました。もう1つ花の会でおっしゃった言葉ですけれどもどこがどう管理されているのかわからないけれどもこの管理とか関係ないじゃないというところでまとめてきれいにされたというお話がありました。市民協働、行政だとかこの課だとかいう回されることが多いんですけれども市民の面というのが大変すばらしいと思いました。さらに最後のほうでおっしゃった潮風や乾燥に強い植物をご存知の方があつたらぜひ教えてくださいというふうに長く地域のなかで暮らされているご高齢の皆さんの知識の宝庫など、新たな呼びかけをされているし、または行政区と市民グループに協力を呼びかけている。こういうような新しい面をどんどんだしていただいているところはすばらしく市民協働ならではの新鮮さというのを感じました。

トンネルを歩こう会ですが250人の数字もたいしたものだと思いますが行政が事業としてトンネルに合わせて、それを市民が愛するものにしていくというところをうまく繋いだんですね。道路とかトンネルとか、こういう事業は市民に触れて愛されて何ほです。今の政権はコンクリートから人へというようなスローガンを掲げておりますがまさにコンクリートと人をつなぐトンネルですね。そういう意味の企画はすばらしいなど。そこがたぶん後々は今回のトンネル箇所でも来年度は白浜レクリエーション大会地域の絆を結ぼうということにつながっていくんだと思いますがこれも非常にいいタイミングだったと思います。その中で特にお話もありましたがプランターグループとの触れ合い今回は4つ5つのテーマで動いてますがそのテーマがつながってくるというところが大きいですね。

どうしても最初の地域づくりを考える会をのときのワークショップもそうだったですけれども行政とのやり取りですが私の考えているところを先にやってよ、私の思いを先にやってよというような思いの強さというような面もありましたけども逆に先にやったほうが勝ちなんだといったところも若干見られましたが、これって1この入り口から入っていても後々いろいろつながってくる。いろんなアイデアが入りこんでくるんだというところが自ら築かれていくというところが大変関心をいたしました。

城山の発表ですけれどもこれも県の事業からはじめて市の事業に発展したと関心をして聞いておりました。特に行政が充分成り立ってないハード面の整備の管理を市民グループで引き受けるということ。それを管理までもっていったらなお且つ行政ではやりにくいガイド養成という新たな要素をうまくつなげていくんですね。これも市民協働ならではの観点です。どうしても行政の考えるハード面とじ外部とどういうふうにやっていこうかと、分けて考えがちですが一体にもっていている。確か、考える会もワークショップのときにもいただいたお話だったと思いますが、ベンチを寄贈してくださる方がいて従来ですとベンチなんか行政が設置してくれるという面がありますけれどもこういうベンチだったら私のところで作れるよ、置けるよという話があってそれが実現したということだと思います。先ほど山口さんがおっしゃってましたけどもボランティアをしてみんないい顔で写真が写ってますよね。そのいい顔っていうのがすごくいいですね。強制されてやるという顔にならないんだけどボランティアと一緒にやると気持ちがいい。それがいい顔になっている。いい顔になってくるとというのが世代を超えて会話が響いたり、みんなが安心して白浜が好きになったり、関わるからよけい好きになる。いい顔になる。こういうところが市民協働とか理屈は難しいんだけどいい顔ができる会というところがすごくすばらしいかな。やはり先ほど申し上げたように従来の出てこなければだめだよ。罰則だよという話にならない。緩やかにつながっていくというところが大変すばらしいかと思えます。最後に農業体験グループですけれども高木さん発表なされるかなと思ったんですが橋本さんみたいへん発表がお上手でした。いつも農業と同じ仕事をしているのに楽しめたと、いつもの仕事なのに楽しめたとそこらへんが農業という仕事に広がりをもって地域に貢献できている。そういうようなことがあって楽しめたんだと思いますし、特に農業体験グループは中村さんのご尽力もあって移住者が係わる、今後移住者が増えて気候が温暖で人が優しく安心してというような白浜地区になってくれば移住者が増えるでしょう。イギリスへよく行くんですけどもイギリスも北のほうから南のほうへ高齢の人が移っていくんですね。移ってくるとときどき日本の農村では問題になるんですけども外の人をなかなか受け入れて下らないところがある。そういうような時にこういう各グループが緩やかに入っていく、楽しんで入っていく、いい顔ができるということになると移住者が来やすい。このメリットは移住者がきてもとんでもなく遠い地域でなくいつでもアクアラインを通して東京に帰っていく。離れているようで近い。バスで2時間半ぐらいで行けてしまうわけで、そういうような意味で今後農業、漁業もそうかもしれませんが、移住者を引きつけて移住者にも心地の良いところができあがってくるという意味でこのグループの発表も先々楽しみます。

最後に、今後協議会きらり、きらりっていいですね。一言なんです南房総市はいろいろな市民協働の特に農村的な部分を生かした市民協働が広がっていく、ある意味、全国的な先がけになるでしょうし、その中で白浜地区は南房総市の更に先駆けになっていくわけで、それがきらりと光ることがどんどん南房総の他の地区に広がり尚且つ過疎で悩んでいた行政に苦しんでいる市町村のなかでいい顔ができる人達が増えているということもきらりにもなるでしょうし、そういう意味で大変いいお名前がついたし、普通スローガンや中長期計画はなんというんでしょうか言葉だけというところはあるんですけれども、これまで考える会、準備委員会を踏まえてこういう活動にきているわけで、一個一個「ストン」ということなんだとわかるんですね。参加された皆さんもおわかりになる。そこがきらりが言葉だけではないところに大変関心をいたしました。私も今日は楽しみにしてまいりましたが本当に皆様方の発表楽しませていただきましたし大変感動いたしました。ありがとうございました。



6. 意見交換

(平野区長会長)

4つのグループの活動の発表に感銘を受けました。この会は、どちらかというと社会貢献、社会奉仕とかボランティアとか、情熱のある方の集まりであり、そうでないと持続できないと思います。もう一つは、先ほど市長が話されておりましたが、自治の原点は、地域住民があたりをあたっていかなければならないと言っていますが、これは重要な言葉です。これから高齢化が進んで、様々なところにひずみがでてくると思います。農業、漁業、観光が今までのようには行かなくなってくる。この会のきらりという名前もいいですね。地域の宝に光をあて、そして輝かせていただきたい。私ども区長会といたしましても、白浜地区の各種団体としても、皆さんの力に心より敬意を表して、全面的に協力していきたい。

(栗原会長)

海岸道路の原地区(漁協養魚場裏)のプランターの後ろに、花木がある。これがプランターを覆うことと、海岸の景観がドライバーから見えない。出来れば刈り取りたいがどのようにしたらいいか、お知恵をお貸しください。

(原区長 小林さん)

検討してお答えします。

(山口惣司さん)

3/5に鈴木勇太郎先生の講演がありますので是非きてください。

(鈴木勇太郎さん)

私は、花の会のお手伝いが出来るかも……潮風に強い植物など相談してください。

7. 閉会